

# 「新しいことにチャレンジして地域を盛り上げたい」



丹 亮輔 (38 歳) 新規参入  
(久万高原町)

## 1 就農の動機・理由

広島県で仕事をしていましたが、親が自営業をやっていたこともあり、自営業に興味があった。中でも自然に触れながら暮らせる農業に魅力を感じ、就農を決意した。

就農場所を全国で探したところ久万高原町の研修制度を知り、地元に近いこともあって移住を決め平成 30 年に研修をスタートさせた。

## 2 農業経営の概要

### ○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和 2 年)	現在の経営 (令和 5 年)	将来の経営 (令和 8 年)
労働力	男 1 人(本人) 女 1 人(妻)	男 1 人(本人)	男 1 人(本人) 女 1 人(妻)
経営耕地	水田 20 a	水田 60 a	水田 94 a
経営内容	夏秋トマト 20a (雨除け施設)	夏秋トマト 20a (雨除け施設) 水稲 14a キャベツ 20a ほうれんそう 6a	夏秋トマト 20a (雨除け施設) 水稲 14a キャベツ 50a ほうれんそう 10a

### ○農業用施設

ビニールハウス 9 棟 2,000 m<sup>2</sup>  
農業用倉庫 2 棟

### ○主要農業機械

軽トラック 1 台  
養液土耕システム 1 式 (2,000 m<sup>2</sup>分)  
動力噴霧機 1 台  
刈払機 2 台  
細霧冷房 1 式

## 3 あしあと

### (1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県松山市

職歴 新聞販売業勤務

就農研修歴

久万農業公園

(H30. 4. 1~R2. 3. 31)

就農年月 令和 2 年 4 月

### (2) 就農時の思い

農業はやり方で質や収量が変わり、「自分次第」というのがシンプルに表れる職業だと思った。前職は営業職で休みがなく、人の顔色をうかがうことによる精神的な疲れが多かったが、農作業の疲れは苦ではなく自分に合っていると思う。

## 4 就農時の取り組み

### (1) 技術の習得

久万農業公園での研修で雨除けハウスのトマト栽培を経験した。1 年目は 1,200 本、2 年目は就農地のハウスで 2,000 本の栽培を行い、基礎的な知識や技術を身につけた。

研修中は主に先輩農家などからアド

バイスを聞き、栽培や営農について相談した。

## (2) 資金の準備

骨組みが残っていたハウスを買い取り、久万農業公園のリース事業を使って補強を加え、そのハウスで就農した。

## (3) 農地・住宅の確保

町外からの新規参入なので、つてがなかったが、農地は久万農業公園の手助けにより借りることができた。住宅も農業公園と相談しながら空き家を見つけてもらい住むことができています。

## (4) その他苦労したこと

就農するにあたって資金が不安になることもあったが、農業公園や先輩に相談しながら乗り越えることができた。栽培の面では教わるだけではなく、自分で経験しないとわからないことも多かったので、毎年考えながら試行錯誤を繰り返して基礎を固めた。

## 5 農業経営の特徴

青年農業者連絡協議会とトマト部会に所属している。トマトはJAに全量出荷していて、米もJAに出荷している。トマトは部会全体でエコえひめの認証を取得し環境にやさしい栽培に努めている。ほうれんそうとキャベツは道の駅や直売所に出荷している。今年はキャベツなどを他の地域にも拡大して出荷できたらと考えている。

## 6 これからの夢

大きなことにチャレンジしてみたいと思っている。自分のお客さんを持つ機会があまりないので、観光農園に取り組んだり、イベントを開催して参加者が農業に触れる機会を作るなど、人と積極的に

かかわることがしたい。収入を増やすことができれば加工品にも挑戦してみたい。

## 7 成功したキーポイント

久万高原町で先に就農されている先輩やまわりの人にとっても助けられている。就農して数年なので成功したと感じることはまだないが、人間関係に恵まれているから続けられていると思う。

## 8 就農を目指す方へのアドバイス

トライ&エラーを繰り返して毎年新しいことに挑戦していくこと。新しいことをするのは楽しいですし、色々な発見があります。ビジョンを考えながらチャレンジ精神をもって頑張ってください。

### ○ 指導機関からのひとこと

新しいことにチャレンジされている姿は地域に良い影響を与えてくれています。これからも地域の担い手として活躍されることを期待しています！

## 執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室  
久万高原農業指導班  
電話番号 0892-21-0314



先輩農家に教わる丹さん（右）